

風土記の丘の花だより³³⁶

今、そしてこれから見られる植物(2026年8月29日)

あれだけうるさかったクマゼミが少しおとなしくなり、ツクツクボウシツとミンミンゼミの声が主流になってきました。セミの声からも夏の終わりを感じます。でも毎日、暑い！暑い！ツクツクボウシはいいとして、ミンミンゼミの「ミ〜ンミンミンミ〜ン」という体にまとわりつく声は、暑さを倍増させますね。それも「夏の風情」というものなのではないでしょうか？



キツネノマゴの花が咲いています。どこが狐で、誰の孫なのかは知りませんが本当に、変わった名前の草です。珍しい植物ではなく、どこにでも生えています。花が小さいので、正直あまり目立ちません。花の多くはピンク色ですが、たまに白っぽいのも見かけます。何の仲間かといえば、これまた何とキツネノマゴ科で、他にあまり仲間はいません。園芸植物に詳しい方ならご存知と思いますが、庭などに植えるアカンサスという大きな植物がありますが、それと同じ仲間だそうです。



これも小さな花ですね。ウリクサといいます。上のキツネノマゴより小さいかも知れません。周りに草などが生えていない日当たりのよい地面に張り付くように生えます。それでこんなに可愛い花が咲くのに、草むしりでは容赦なく除去されてしまいます。まあ、これも雑草のさだめでしょう。ウリは瓜のことで、花のあとにとっても小さな丸い実ができ、それを瓜に見立てた名前です。



小さな花が続きます。トキリマメです。そろそろ花が終わり、赤いさやの豆ができてくる頃です。トキリとは「吐切り」のことで、吐き気をおさえる豆ということです。よく似たものにタンキリマメというのがあります。どちらもつる性のマメ科植物ですが、こちらは痰をおさえる豆です。



そっくりですが、葉を比べると区別できます。左の先が尖っている方がトキリ、右の尖っていないのがタンキリです。よく見ると全く違うでしょ。



今回は4つとも小さな花になってしまいました。ヌスビトハギの花です。花を見ているだけなら、きれいでいいのですが、豆ができるとひっつき虫になって、衣服に付くと厄介です。でも、ひっつき方では、もうすぐ花が咲くアレチヌスビトハギに比べるとマシです。いずれにせよ、ひっつき虫は困り者ですね。この草は根がとても頑丈で、抜こうとしても、まるで木の根っこのようで、なかなか抜けません。なお次回337号の発行は9月6日(日)の予定です。ご了承ください。 松下